

校内研修計画

山梨市立山梨南中学校

1. 学校課題

(1) 地域の概要

本学区は、都市的性格の強い加納岩地区と農業的性格の強い山梨地区・日川地区の3つの地区から成り立っている。また、わずかではあるが他学区からの生徒もいる。保護者の職業は、会社員・公務員などが多く、かつては多数を占めていた専業農家は2割程度へと減少している。日川地区・山梨地区での農業は、ぶどうや桃などの果樹栽培が中心で、ビニールハウス栽培なども盛んである。また、国道沿いの立地条件を生かした観光ぶどう園も多い。

こうした中、地域の教育に対する関心は高く、学校教育に対しても期待をもちながら、理解と協力を惜しまない。また、PTA活動も活発で、関連行事への参加率も極めて高い。引き続き、地域で子どもたちを育てるという視点を大切にしながら、地域や家庭における教育の充実を一層図っていききたい。

(2) 本校の生徒の実態から

しっかりと挨拶ができ、素直な生徒が多い。学習面において、意欲的に取り組む生徒が多い反面、自ら考え判断する力や表現する力、自分の力で問題解決を図ろうとする力などは、まだまだ十分とは言えない状況が見られる。

2. 研究主題

「**確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫**」
～ 「**やまなしスタンダード**」の定着を目指して～

3. 主題設定の理由

中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」に次のような記述がある。

「学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、さらに実践に生かしていけるようにすることが重要である。

そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、**学びの質や深まりを重視**することが必要であり、課題の発見と解決に向けて**主体的・協働的に学ぶ学習**（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための**指導の方法**等を充実させていく必要がある。こうした学習・指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、子供たちの学習意欲を高める上でも効果的であることが、これまでの実践の成果から指摘されている。」

（平成26年11月20日より一部抜粋）

これを踏まえ、あわせて、「新やまなし教育振興プラン」や「県教育指導重点」「市教育指導重点」等からも見えてくるものは「**確かな学力の定着・向上を目指した日常的継続的な取り組み、授業改善の工夫**」の必要性だと考える。したがって、平成28年度山梨県教育指導重点の中に示されている「**やまなしスタンダード**」授業づくり7つの視点をもとに、日々の授業の在り方について取り組んでいきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 教科別研究会

- ・ 次の6つのグループに分ける

【国語科】 【社会科】 【数学科】 【理科】 【英語科】 【音楽・美術・体育・技家】

- ・ 「**確かな学力の向上**」を目指した授業づくり・授業改善
- ・ 「**やまなしスタンダード**」を取り入れた授業づくり・授業改善
- ・ 「**本時の目標（見通し）**」の提示と「**まとめ（振り返り）**」

- ・ アクティブ・ラーニングからの授業改善
- ・ 全国学力学習状況調査や県学力把握調査など分析と対策 → 授業改善へいかす 等々

(2) 学年別研究会

- ・ よりよい学級・学年集団づくり
- ・ Q-U検査の分析 → 個への対応, 集団づくり
- ・ 家庭学習の定着を図る
- ・ 「自学ノート」の取り組み
- ・ 「自学の時間」の有効的な活用 等々

(3) 授業研究

- ・ 6つのグループから1つずつ(10月~1月)
- ・ 指導案は略案とする。(A4 1~2枚程度)

年間校内研修計画

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C 要請
主題 「確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫」 ~「やまなしスタンダード」の定着を目指して~	<全体会> 学習会① 「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくり・授業改善			1学期	予定
	学習会② Q-U検査の分析方法			1学期	予定
	<教科別研究会> 授業づくり・授業改善・授業研究 全国学力学習状況調査や県学力把握調査など分析と対策	各教科 各教科		10~1月 結果後	
	<学年別研究会> Q-U検査の分析→個への対応および集団づくり 家庭学習の取り組み「自学ノート」	各学年 各学年	各学年 各学年	検査結果後 通年	